

大阪西北RCの古市様、ようこそいらっしゃいました。

先週の例会が終わりましてから、阪神第2グループIMの記念事業として武庫川女子大学付属中学校・高等学校グラウンドを訪問し、天羽ガバナー補佐、実行委員会の皆様と阪神第二グループ6RC会長・幹事が参加し、記念植樹をして参りました。

3月1日の6RCゴルフコンペが開催されます。甲子園RCが主管ですのでよろしくお願い致します。

いま車業界は大きな転機を迎えようとしています。

皆様もよく御存知だと思いますが、100年に一度の大変化、大変革に直面しています

自動車は普及して100年あまり、業界はガソリン車から電気自動車の普及に向けて自動車メーカーやIT企業を巻き込んだ技術開発などの動きが世界で急速に広まっています。

フランスとイギリスが2040年までにガソリン車とディーゼル車の販売を禁止する方針を打ち出し、世界最大の市場で深刻な大気汚染に悩まされている中国も今後販売台数の一定割合を電動車にするよう義務付けることを表明し、いずれも環境規制が理由です。

エンジン車は数万パーツの部品が必要で、組み立てには高い技術力が求められます。一方の電動車は部品が大幅に少なく、モーターなどを外部から導入すれば比較的容易に生産できるとされています。

さらに、業界には自動運転の流れが押し寄せており、自動運転に必要な人工知能(AI)や高度なセンサーの開発が得意なアップルやグーグルといった米IT企業が存在感を高めています。

エンジン車だけでは主要市場で商売ができなくなり、新興企業が力をつけ業界の勢力図が塗り変わる可能性もあります。例えば森幹事の愛車テスラは創業から今年15年目ですが、時価総額は米ゼネラルモーター(GM)を上回ったといわれています。

タイヤ業界も転機を迎えようとしています。

1895年に自動車の空気入りタイヤを開発したのが、フランスのミシュランであり、それから100余年になりますが、いま各タイヤメーカーは空気充填不要のタイヤ(エアレスタイヤ)の開発を目標としておりますが、昨年9月にTVニュースで放映されたTOYOゴムが従来の空気入りタイヤの基本性能を担保した近未来型エアレスコンセプトタイヤを開発し、実写装着試走会も開催されました。

外側の路面に接するトレッド部分はゴム部材を使い、内側には高剛性の特殊な樹脂のスポークを採用して「走る、曲がる、止まる」というタイヤの基本性能を成立させました。そして空気入りタイヤのパンクやバーストから解放され、より安全なタイヤになります。今後実用化を視野に入れていく方針だそうですが、業界全体の法整備が整っていない状況とタイヤの重量が空気入りタイヤに比べ40パーセント近く重くタイヤのパターンノイズ、乗り心地等、研究課題もあります。そういう転機は自動車業界だけでなく、社会も、私たちのロータリーも大きな転機を迎えることと思います。